

2 日本軍艦の廈門税関監視船専条号臨検事件

781 昭和10年5月16日 平塚(公義)台湾總督府總務長官より
重光外務次官宛(電報)
中国税関監視船による第一宝生丸など邦船への不法臨検事件について

781 昭和10年5月16日 平塚(公義)台湾總督府總務長官より
重光外務次官宛(電報)
ラレタル基隆共同漁業所屬船男島丸(四八噸)ト認メラルル
由ナリ右ハ從來ノ事實ニ鑑ミ貴地監視船ノ所爲ト思料セラ
ルルニ付御取調ノ上御回報請フ委細郵報ス

外務省、拓務省、支、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

台北 5月16日後発

本省 5月16日後着

第一三號

本官發廈門宛電報

第三二號

客年十二月十日附貴官發外務大臣宛機密第五二二號末段ニ

關シ監視船ハ其ノ後相當慎重ナル態度ヲ持シ居リタルモノ

ノ如ク見受ケラレタル處淡水港籍漁船第一寶生丸ハ五月十

日淡水西南約十五海里ノ地點ニ於テ支那監視船ト覺シキモ

ノ(一五〇〇)噸位ナリト云フヨリ猛烈ナル射擊ヲ受ケ英人

一名支那人七名同船内ヲ搜查シ魚類ノ提供ヲ強要シタリト

尙同日豊貴角^(金)北西五十五海里冲合ニテ國旗掲揚漁撈中ノ烏。

來丸モ支那監視船ラシキ怪船ニ停船セサレハ砲擊スト威嚇

782 昭和10年5月18日 在廈門塚本(毅)領事より

広田外務大臣宛(電報)

第一宝生丸などへの臨検に関する廈門税関の説明振りについて

廈門 5月18日後発

本省 5月18日後着

第五一號

本官發臺灣總督宛電報

第五二號

貴電第二二一號ニ關シ

十五日海軍側ヨリ入手セル情報ニ基キ稅關ニ調查ヲ要求セ

ル處十七日公文ヲ以テ左ノ回答アリ相違ノ點再調査ノ上御

回電相煩度シ

第一寶生丸ノ件ニ付テハ五月十日午後一時二十五分淡水港
北西二十浬ノ地點ニ於テ專條號ハ寶生丸カ國旗ノ掲揚無ク
停船信號ヲ無視シタルニ依リ船體ノ先方ニ彈丸數發ヲ發射
シテ停船セシメ臨檢ヲ行フ日本國籍船ナルヲ知リ謝意ヲ表
シ現金二弗ヲ以テ魚類ヲ買求メ引揚ク
烏來丸ノ件ニ付テハ事件發生方面擔當警備船三隻ニ就キ取
調ヘタルモ全然其ノ形跡無シ
外務大臣ヨリ拓務大臣へ轉報アリタシ
大臣、支、福州、廣東、汕頭へ轉電セリ

廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

783 昭和10年5月31日 在廈門塚本領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本海軍の駆逐艦による廈門税関監視船専条号の号への臨検事件について

廈門 5月31日後発

本省 5月31日後着

第五四號

784 昭和10年5月31日 在廈門塚本領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本軍艦の専条号臨検に対する廈門税関長の抗議について

廈門 5月31日後発

三十日島風、夕風ノ二驅逐艦馬公ヨリ來航ノ途廈門近海ニ
於テ稅關監視船專條號^(金)ニ遭遇セル處戎克^(金)二隻ヲ捕獲廻航中

サレ船内捜査ヲ受ケタリ右怪船ハ曩ニ支那海關ヨリ拿捕セラ
ラレタル基隆共同漁業所屬船男島丸(四八噸)ト認メラルル
由ナリ右ハ從來ノ事實ニ鑑ミ貴地監視船ノ所爲ト思料セラ
ルルニ付御取調ノ上御回報請フ委細郵報ス

第五五號

往電第五四號ニ關シ

785 昭和10年5月31日 在廈門塚本領事より
廣田外務大臣宛(電報)

專條号臨検事件への対処方針につき請訓

三十一日朝税關長來訪如何ナル理由ニ依リ日本海軍ハ税關船ヲ停船臨檢セルヤ又右ハ支那領海内ニ於テ行ハレタルニ付重大視スル必要アリト申出テタルニ付本官ノ得居ル情報ニテハ專餽^(餽)カ日本船舶ヲ臨檢セル事實ニ顧ミ曳航中ノ戎克カ日本船ニ非サルヤヲ確ムル爲ニ行ヘルモノラシク其ノ地點ハ公海内ト聞キ及ヒ居レルカ海軍側ノ正式説明ハ未タ聞キ居ラサルニ付追テ送ルヘシト答ヘタルニ領海内タルコトハ支那海軍ヨリ證明書ヲ取付クル手筈トナリ居レルカ公海上ニ於テモ臨檢ノ理由ナシト思考スル旨又支那戎克ハ船體ノ頭部ニ所屬港及番號ノ記載アリ一目シテ明瞭ナル筈ト述ヘ三驅逐隊司令ト面會シ其ノ説明ヲ聞キIG二報告シ度シト云ヘリ依テ直接面會ハ言葉ノ關係上便利ニアラサルニ付書面ヲ以テ本官ヨリ取次クヘシト答ヘ引キ取ラシメタリ回答振リニ付海軍ト協議中

冒頭往電ノ通轉電セリ

厦門 5月31日後發
本省 6月1日後着

第五六號(極秘)

往電第五五號ニ關シ

現行犯ナラハ兎モ角平時ニアリテ他國公船ヲ臨檢スルハ不當ト謂フヘク又領海内ニ於テ臨檢セルコトモ事實ラシク本件ヲ無理押シニ押シテ當方ニ非無シト主張スルハ困難ト思考セラル依テ專權^(權)カ邦船ヲ臨檢セル事實ハ先方モ承認シ居ルコトナルニ付專權^(權)カ又復邦船ヲ襲ヘルニ非サルヤヲ疑ヒ戎克ノ正体ヲ見ル爲ニ行ヘルモノナルカ其ノ法ヲ超ヘタル點ニ付遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ今後税關側モ公海上ニ於テ邦船ヲ臨檢セサル様注意アリタキ旨ヲ申送ル様致度此ノ「ライン」ニテ海軍ト協議シタシ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

支ヘ轉電セリ

786 昭和10年6月1日 在中國國境内大使館一等書記官より
廣田外務大臣宛(電報)

台灣近海での税關監視船の活動方針に関する
総稅務司署の訓令内容について

上海 6月1日後發
本省 6月1日後着

第四五五號
⁽¹⁾本官發廈門宛電報

第一〇號

臺灣宛貴電第二五號ニ關シ

三十日第三驅逐隊ヨリ海軍武官ヘノ入電ニ依レハ同日午前七時同驅逐隊ハ廈門港外(大坦嶼燈臺ノ南四十度東三浬半)ニ於テ税關監視船專權^(權)ヲ停止セシメ尋問ノ上釋放セリトノ趣ナリシニ付不取敢館員ヲシテ總稅務司處岸本ニ對シ冒頭貴電邦船臨檢ノ模様ヲ話スト共ニ(右海軍電報ノ趣旨ハ話サス)税關監視船側ニテ今後此ノ種不法臨檢ヲ繰返スカ如キ場合ニ於テハ由々シキ問題ヲ惹起スル惧アルヘキニ付充

シタル處岸本ハ寶生丸ノ件ニ付テハ報告ニ接シ居リ總稅務

稅關へ通報方依頼について

中國稅關による邦船不法臨檢に對し台灣總督府は斷固たる措置を講じる旨廈門および福州

台北 6月1日後発
本省 6月1日後着

第二六號

本官發廈門宛第一四號(福州宛第一四號)電報轉電ス

第一賣生丸ノ件ニ付テハ日時ノ點等支那海關回答ト大差無

キ處魚類ハ監視員カ勝手ニ沒收シタルモノナリ、銀貨ヲ置

キタルハ後日ノ辯明ニ資センカ爲ナリト思料ス、支那監視

船ノ邦船不法臨檢ニ對シテハ各領事館、公使ヲ通シ屢次抗

議ヲ申入アル次第ナルカ輓近又復此ノ種不法行爲ヲ敢行シ

殊ニ國旗掲揚漁撈中ノ烏來丸ニ對シ停船セサレハ砲擊スト

威嚇シ臨檢ヲ爲スカ如キハ不法モ甚シキモノニシテ是等監

視船ノ爲一般邦船ノ進出ニ鮮カラサル影響ヲ及ホシツツア

ルノミナラス帝國ノ威信ニ關スル問題ナリ從來ノ我方數次

ニ亘ル勸告的抗議ニ拘ラス猶且海賊類似行爲ヲ擅ニスルニ

於テハ邦船保護帝國威信ノ保持上默認シ難ク爾今如何ナル

理由存スルトモ公海ニ於テ邦船ノ臨檢ヲナシタル場合ハ斷

乎タル處置ヲ講スヘク之ニ依リ惹起スヘキ事故アリトスル

モ責任ハ全然支那側ニ歸スヘキコトヲ本府ノ意嚮トシテ豫

メ支那側ニ御傳達置請フ

尙烏來丸ヲ臨檢シタルハ船腹ニハ福州巡邏船ノ文字アリ福
州海關所屬監視船ト思料セラルニ付福州領事ニ於テ嚴密
御調查ノ上御回報請フ

通報先、福州、廈門

轉電先、外務次官、支

788 昭和10年6月1日 在廈門塚本領事より
廣田外務大臣宛(電報)

789 昭和10年6月2日 在廈門塚本領事より
廣田外務大臣宛(電報)

日本海軍の專条号に対する措置に非はなく中

往電第五六號ニ關シ

第五七號

往電第五六號ニ關シ

第三驅逐隊司令ヨリ更ニ詳細聽取セル處停船信號及「サイ

レン」ヲ繼續セルモ停船セス領海内ニ逃げ込ム様子ナリシ

ニ付空砲ヲ發射セル由、停船ハ午前六時四十分ヨリ九時二

十四分迄其ノ間士官船上ニ至リ船長ノ説明ヲ聽キタルカ強

制的訊問又ハ書類檢閱ハ之ヲ行ハス依テ臨檢ト稱スヘキニ

ノ行ヘル行動ト同様ナリ客年支那側ハ邦人漁船ノ公海上ニ

於ケル臨檢ハ一切行ハサルヘキ旨約シ居ルニ拘ラス最近專

機其ノ他カ臺灣近海ニテ邦人漁船ヲ臨檢セルハ不法且不信

ト云フヘク支那側ニ於テ斯ル行動ナカリシモノトセハ今同

ノ如キコトモ起ラサリシモノト思考ス帝國海軍ノ行爲ニ何

等非ナキコトヲ表明スルト同時ニ稅關ノ態度反省ヲ求ムル

旨本官ヨリ當地稅關長ニ申入度同時ニ中央ニ於テモ同趣旨

ノ抗議ヲ御配慮アリタシ何分ノ儀至急御回訓ヲ仰ク

支ヘ轉電セリ

202
789 昭和10年6月2日 在廈門塚本領事より
廣田外務大臣宛(電報)

中國稅關による邦船不法臨檢は許さないとの
海軍側方針に策應すべき旨意見具申

更ニ應セス領海内ニ逃げ込マントスル氣配ナリシニ付一段

ト疑ヲ深メ空砲ヲ發射シ停船セシメタリ士官ヲ派遣シ船長

ノ説明ヲ聽取セルモ何等強制手段ヲ用ヒス書類檢閱モ行ハ

ス「ジャンク」カ支那籍ナルコトヲ確ムルヤ直ニ之ヲ釋放

セリ依テ之ヲ國際法上ノ臨檢ト言フコトハ當ラス客年球磨

ルニ付海軍トシテノ態度ハ明確トナレルニ付之ニ基キ措置

アリタキ旨申出タリ右訓令ハ東京及上海ニモ轉電シアル筈ニ付貴地海軍側ヨリ御聽取アリタシ要スルニ支那稅關監視

船力不法監視ヲ續クル限り將來引續キ今回ノ如キ態度ニ出ツヘキコトニ決定セルモノ思ハルニ付外務省トシテモ

之ニ策應スルヲ妥當ト思考ス依テ冒頭往電後半ノ趣旨ヲ以テ本官ヨリ當地稅關長ニ通告ヲ發シ度シ但シ專饒^(ゆき)ノ不法監

檢事件ハ臺灣ヨリ未タ再調査ノ報告ナキニ付深入リセス單二言及スルニ止メ度シ明三日ハ英國國祭日ニテ本官モ司令

モ稅關長ト會スル筈ニ付其ノ以前ニ通告スルコト便宜ト認メ早朝發送シタシ御回電ヲ仰ク

支ヘ轉電セリ

790 昭和10年6月3日 広田外務大臣より 在廈門塚本領事宛(電報)

日本海軍の專條号への措置および中國稅關監視船の邦船監視事件に関する対処振り回訓

本省 6月3日後4時発 第三三號

第三三號

第三三號

第三三號

791 昭和10年6月4日 在中國堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

中国稅關監視船の不法行為再発防止に関する
總稅務司との意見交換について

上海 6月4日後發 本省 6月4日後着

第四六三號

廈門宛貴電第三三號ニ關シ

稅關監視船ノ此ノ種不法行為ノ再發ヲ防止スルコト差當リノ急務ト考ヘラレ海軍武官トモ協議ノ上四日本官總稅務司「メーズ」ト會談セル要領左ノ通

一、本官ヨリ寶生丸不法監視ノ事實ヲ説明シタル上昨年中同様ノ不法事件頻發シ、G代理及外交部ト交渉ノ結果支那側ニ於テハ此ノ種事件ノ再發ヲ防ケ爲最善ヲ盡スヘキ旨

ナルカ日本海軍ニ於テハ日本商船保護ノ任務ヲ有スルモノナレハ此ノ種不法行為カ繰返サルニ於テハ監視船ヲ

以テ海賊行爲ヲナスモノト看做シ之ニ對シ適當ノ措置ヲ執ルコトアルヘキニ付右繰返ヘササル様至急必要ノ措置

貴電第五四號乃至第五八號ニ關シ

一、本件ニ關スル稅關長宛貴官ノ通告ハ貴電第五七號中段

「帝國海軍ハ專機力最近」ヨリ「戎克カ支那籍ナルコトヲ確ムルヤ直ニ之ヲ釋放セリ」迄及「客年支那側ハ」ヨリ「不法且不信ト言フヘク」迄貴電案文ノ儘トシ次イテ

「斯カル支那側ノ行動力續行セラル限リ今回ノ如キ事故發生ハ將來モ免レサル所ニシテ之カ責任ハ專ラ支那側ニ存ス」ト結ハレ度

二、一方貴官發臺灣總督府宛電報第二五號ノ事件ハ臺灣總督府發貴官宛電報第二四號ニ依リ支那側ノ不法行為ナルコト愈々明カトナレルニモ鑑ミ貴官ハ前記「ノ通告發出ニ先シ稅關長宛公文ヲ以テ本件ニ關シ嚴重抗議セラルルト共ニ適宜(例ヘハ口頭ニテ)帝國軍艦ハ將來此ノ種支那側公船ノ不法行為ヲ海賊行爲ト看做シ之ニ相當スル適當ノ處置ニ出ツルコトアルヘキ旨警告シ置カレ度

本電海軍側ト協議スミ

支ニ轉電セリ

ヲ執ラレタシト申入レタルニ對シ「メ」ハ寶生丸ヲ停船シタルハ單ニ國籍ヲ確ムル爲ニシテ不法行為ニ非ス然ルニ日本軍艦ハ專饒^(ゆき)號ヲ支那領海内ニ於テ停船監視シ居ルハ明カニ不法ナリト應酬セルニ付本官ヨリ專饒^(ゆき)ノ不法行為ノ事實ハ大体ニ於テ廈門稅關長モ之ヲ認メ居リ問題トナラス

從テ我海軍カ三浬以外ノ公海ニ於テ之ヲ停船セルハ前記ノ見解ヨリ正當ナル行爲ナルノミナラス南支那海ノ警備ニ在ル我軍艦ハ昨年來頻發セル監視船ノ不法行為ヲ防止スル爲海賊行爲ヲ行ヒ居ル監視船ハ公海ニ於テ見付ケ次第取調フヘク場合ニ依リテハ之ヲ抑留又ハ擊沈スルモ已ムヲ得スト考ヘ居ル次第ナレハ專饒^(ゆき)ノ停船取調ノ如キハ問題トスルニ足ラス尤セ我海軍ハ是等任務遂行ニ當リ常ニ正義ノ觀念ニ支配サレ充分ナル氣品ト冷靜トヲ保チ居ルモノナレハ其ノ結果密輸援助トナルカ如キコト無キ様充分ノ注意ヲ拂ヒ居ルコト勿論ナリト説明セル處「メ」ハ自分ハ寶生丸事件發生後廈門ニ對シ監視船力充分自制シテ日本海軍トノ間ニ事ヲ起ササル様訓令ヲ出シタル次第ナルカ御申出ノ事態ニモ鑑ミ更ニ改メテ監視船ノ職務

遂行ハ嚴重ニ支那領海内ニ限ルヘキ旨訓令スルコト致

度キニ付貴方海軍側ニ對シテモ此ノ上共自制セラル様

願度シト述ヘ

依⁽³⁾テ本官ヨリ右訓令發出ノコトハ直ニ海軍側ニ傳ヘ差支

無キヤト念ヲ押シタルニ「メ」ハ差支無シト答ヘタリ

三、尙其ノ節「メ」ハ日本側ハ領海三浬說ヲ採リ支那ハ十二

浬說ヲ採リ居ルモ(本官ヨリ右ニ付兩國間ノ意見一致ヲ

見サルモ我方ハ我方ノ認ムル處ニ依リ行動シ得ルコト國

際法上當然ノコトナリト念ヲ押シ置ケリ)日本側ニ於テ

ハ支那監視船力追蹤權ヲ行使スル場合ニハ十二浬迄權力

ヲ及ホシ得ルコトヲ認メラルヤト尋不タルニ付本官ハ

右カ國際法上確定セル原則ナルニ於テハ且追蹤權行使中

ノ事實カ明白ナレハ異存ナカル可キモ此ノ點ニ付テハ自

分ハ今直ニ明答ヲ與ヘ得ル地位ニ非スト答ヘ置ケリ

三、尙寶生丸事件ノ後始末ニ付テハ海軍側ノ意嚮モアリ廈門

稅關長ノ手紙ヲモ取寄セタル上改メテ請訓スヘク又冒頭

電報一ノ點ニ付テハ前記「メ」トノ應答ノ次第モアリ此

ノ上當方ヨリ改メテI、G側ニ申入レサル積ナリ爲念

(本電海軍側ト話済)

廈門ヘ轉電セリ

792 昭和10年6月5日 在中國堀内大使館一等書記官より

廣田外務大臣宛(電報)

外國船舶への職務執行に関する總稅務司より

關係稅關への訓令内容について

上海 6月5日後發

本省 6月5日後發

往電第四六三號ニ關シ

五日岸本ヨリ本官ニ對シ左ノ通り電話アリ我方關係方面ニ

通報差支無シトノコトナリ

一、五日「メ」ヨリ廈門、福州、芝罘ニ對シ左ノ趣旨ノ電訓

ヲ發シタリ

(イ)支那以外ノ船舶ニ對スル職務執行ハ嚴ニ三浬以內ノ支

那領海内ニ限ルコト但シ追蹤權行使ノ必要アル場合ニ

ハ十二浬迄出スルモ差支無キコト

(ロ)公海ニ於テハ支那船タルコト明カナル船舶ニ對シテノ

ミ職權ヲ行使シ得ルコト

(ハ)日本國旗ヲ掲揚セサルモ日本籍タルコト明カナル船舶

ニ對シテハ絶對ニ干渉ス可カラス(冒頭往電會談ノ節

本官ヨリ「メ」ニ對シ日本船ハ公海ニ於テ國旗掲揚ノ

義務無キモ船舶法ノ規程ニ從ヒ其ノ船名及船籍港ヲ船

腹ニ表記シ居ルヲ以テ日本船タルコトヲ容易ニ識別シ

得ル旨ヲ説明シ置ケリ)

二、專餽^(候)號ニ對シテハ廈門以外ノ港ニ於テ服務スヘキ旨發令

濟ニシテ又一、以外ノ港ニ對シテハ書面ヲ以テ右ノ旨ヲ訓

令セル趣ナリ

廈門、福州、汕頭、天津、青島、芝罘へ轉電シ上海へ轉報

セリ

793 昭和10年6月6日 在廈門塚本領事より

廣田外務大臣宛(電報)

中國稅關監視船の邦船臨檢事件に關し廈門稅

關長へ公文抗議について

廈門 6月6日後發

本省 6月6日後發

955 954

在福州岡部(計)總領事館事務代理より

廣田外務大臣宛(電報)

中國稅關監視船の邦船臨檢事件に關し福州稅

関長へ抗議について

福州 6月8日後発

昭和10年6月13日 在廈門塚本領事より

広田外務大臣宛(電報)

中国税関監視船の邦船臨検事件に関し再抗議

方請訓

貴電第一四號ノ趣旨稅關長ニ傳達スルト共ニ同電末段福汀

巡邏船ノ烏來丸臨檢ニ關シ抗議セル處稅關長ハ福汀號(福州海關所屬)カ五月十日公海ニ於テ烏來丸ヲ搜索セルハ事實ナルガ右ハ當日海賊船^(海賊)ノ疑アルモノヲ追跡ノ際國旗ヲ掲ケサル汽船ヲ發見セルヲ以テ停船ヲ命シ臨檢セルモ日本船ニ相違無キコト判明セルニ依リ間モ無ク釋放セリ海賊船ハ往々日本船名ヲ用ヒ監視船ヲ欺クコトアル爲今回ノ如キ「ミステーク」ヲ爲セルカ惡意アリシニ非スト答ヘ當日福汀號ノ乗組員ハ六名ニシテ烏來丸ニ入レルハ三名ニ過キスト附言セリ

大臣、支、廈門へ轉電セリ

編注 六月十日發訂正電にて「海賊船」を「密輸船」と訂正。

先方ハ大使發閣下宛電報第四六三號ノ次第ヲ匿スニ努メ監視船ノ行動ヲ飽ク迄正當ナリト主張シ居ルノミナラス何等遺憾ノ意ヲ表シ居ラサルニ付此ノ點ヲ強ヒテ辯駁シ國旗掲揚ノ有無ヲ理由トシテ公海上ニ於テ邦船ヲ臨檢スルヲ正當ト爲ス限り當方ノ苦情ハ永久ニ去ラス又帝國海軍ハ專條停船ト類似ノ措置又必要ニ應シテハ右以上ノ峻嚴ナル措置ヲ採ルヘキコト又之ニ對シ當方ハ何等ノ責任ヲ負ハサルコトヲ申送リ度シ

右以外微細ナル點ノ論駁ハ大局ニ影響鮮キニ付當方へ御一任アリ度又中央ニ於テハ本官再抗議文送付後當地稅關長力自己保身上詭辯ヲ弄シ居ルコトヲ突込マレ當地稅關力如何

二腐敗シ居ルカヲ示サレ密輸者ト結託シ居ル事實モ舉ケ又當館カ密輸防止ニ協力シ居ル點等ヲ示サレ現任稅關長ノ如キ徒ニ日本ニ偏見ヲ抱ク者(彼ハ日本警察ヲ惡口シ矢口ニ對シ工部局ニ日本警察官ヲ入ルヘシト言フモ拒絕セラルハ當然ナリト暴言ヲ發セルコトアリ)ヲ置クニ於テハ當館ハ之ニ協力スルヲ止ムヘキヲ申入レラル様御願致度シ右ニ關スル資料郵送ス
支へ轉電シ福州へ暗送セリ

796 昭和10年6月14日

在廈門塚本領事より
廣田外務大臣宛(電報)

中國税関監視船の邦船臨検事件に關し我が方

抗議を廈門稅關長逐条反駁について

廈門 6月14日後発

本省 6月14日後着

第六五號

往電第六〇號ニ關シ

十一日附ヲ以テ九枚ニ亘ル長文ノ回答ヲ寄越セルカ本邦船臨檢ニ關スル臺人ノ報告ハ「エクザゼレート」セラレ居レ

帝國海軍カ之ヲ疑フ餘地無キコト一國ノ Government Flagヲ掲クル船カ友好國ノ軍艦ニ停船信號ヲ受ケルハ常軌ニ非サルニ付船長カ之ヲ認知セサリシハ當然ナリトシ停船地點ハ太坦嶼ヨリ^(大坦)四哩^(哩)ト言ヘ共同地點ヨリニ哩半ニハ大礁有り明ニ支那領海内ニシテ船長ハ其ノ拔錨前其地點ヲ「チエツク」シ支那海軍士官及稅關員ニ依リ認證ヲ請ヒタリトシ日本海軍ノ行動ハ了解シ難シトナシ居レリ

第四八號

本官發臺灣總督宛電報

第一四號

本省 6月9日前着

廈門 6月13日後発

第六六號

往電第六五號ニ關シ

貴電第一四號ノ趣旨稅關長ニ傳達スルト共ニ同電末段福汀

巡邏船ノ烏來丸臨檢ニ關シ抗議セル處稅關長ハ福汀號(福州海關所屬)カ五月十日公海ニ於テ烏來丸ヲ搜索セルハ事實ナルガ右ハ當日海賊船^(海賊)ノ疑アルモノヲ追跡ノ際國旗ヲ掲ケサル汽船ヲ發見セルヲ以テ停船ヲ命シ臨檢セルモ日本船ニ相違無キコト判明セルニ依リ間モ無ク釋放セリ海賊船ハ往々日本船名ヲ用ヒ監視船ヲ欺クコトアル爲今回ノ如キ「ミステーク」ヲ爲セルカ惡意アリシニ非スト答ヘ當日福汀號ノ乗組員ハ六名ニシテ烏來丸ニ入レルハ三名ニ過キスト附言セリ

大臣、支、廈門へ轉電セリ

編注 六月十日發訂正電にて「海賊船」を「密輸船」と訂正。

先方ハ大使發閣下宛電報第四六三號ノ次第ヲ匿スニ努メ監視船ノ行動ヲ飽ク迄正當ナリト主張シ居ルノミナラス何等遺憾ノ意ヲ表シ居ラサルニ付此ノ點ヲ強ヒテ辯駁シ國旗掲揚ノ有無ヲ理由トシテ公海上ニ於テ邦船ヲ臨檢スルヲ正當ト爲ス限り當方ノ苦情ハ永久ニ去ラス又帝國海軍ハ專條停船ト類似ノ措置又必要ニ應シテハ右以上ノ峻嚴ナル措置ヲ採ルヘキコト又之ニ對シ當方ハ何等ノ責任ヲ負ハサルコトヲ申送リ度シ

右以外微細ナル點ノ論駁ハ大局ニ影響鮮キニ付當方へ御一任アリ度又中央ニ於テハ本官再抗議文送付後當地稅關長力自己保身上詭辯ヲ弄シ居ルコトヲ突込マレ當地稅關力如何

リトシ一々付辯駁シ當方抗議ノ要點ハ寶生丸ニ付テハ魚類ヲ強制的ニ持去リタルコト烏來丸ニ付テハ國旗ヲ掲ケ居タルヤ否ヤニ歸スヘシト結論シ魚類ニ付テハ相當ノ代價ヲ拂ヒ居ルコト兩船トモ國旗ヲ掲ケサリシコトヲ述ヘ國籍ヲ識別スル方法ヲ講セサル船カ嫌疑ヲ受クルトモ驚クヘキコトニ非スト主張シ監視船カ公海上ニ於テ外國船ヲ臨檢スルコトノ適法ナルヲ繰返シ主張ス帝國軍艦ノ海上停船ニ關シテハ「ジャンク」ニハ登錄番號ヲ記シ居ルコト臺灣ノ「ジャンク」ト支那「ジャンク」ハ形ヲ異ニスルニ付識別容易ニシテ

帝國海軍カ之ヲ疑フ餘地無キコト一國ノ Government Flag

ヲ掲クル船カ友好國ノ軍艦ニ停船信號ヲ受ケルハ常軌ニ非

サルニ付船長カ之ヲ認知セサリシハ當然ナリトシ停船地點

ハ太坦嶼ヨリ^(大坦)四哩^(哩)ト言ヘ共同地點ヨリニ哩半ニハ大礁有り

明ニ支那領海内ニシテ船長ハ其ノ拔錨前其地點ヲ「チエツ

ク」シ支那海軍士官及稅關員ニ依リ認證ヲ請ヒタリトシ日本

海軍ノ行動ハ了解シ難シトナシ居レリ

タルニ非ストシ又當地ニ於ケル臺人便利屋ノ稅關員ニ對ス
ル暴行事件ヲ引キテ密輸業者カ事件ヲ巨大ニ報告スルハ自

然ニ付責任有ル官憲ニ於テ

稅關員及監視船ニ對スル嫌疑ヲ少クスルニ於テハ騒ヲ起サ

(³)

サルヘキヲ信スル旨又監視船船長及乗組員ハ其ノ任務遂行
ヨリ外無ク日本海軍ヲ「プロボーグ」スル意思毛頭無キ旨

ヲ記シタル後監視船ハ其ノ權限ヲ越エサル様出來得ル限り

ノ注意ヲ執リ居ルニ付將來苦情發生ノ原因無カルヘキコト

ヲ保障スルト同時ニ稅關船カ其ノ通常任務ヲ實行スルニ際

シ日本海軍ヨリ邪魔セラレサルヘキコトノ保障ヲ得ハ幸甚

ナリト結ヒ居レリ原文郵送ス

支、南京、廣東、臺灣總督、汕頭へ轉電シ福州、香港へ暗
送セリ

797 昭和10年6月22日 在廈門塚本領事より
広田外務大臣宛(電報)

797

昭和10年6月22日

在廈門塚本領事より

広田外務大臣宛(電報)

中國稅關監視船の邦船臨檢事件に關し我が方

再抗議への税關側回答振りについて

往電第六六號ニ關シ
第六九號

往電第六六號ニ關シ

第六九號

再抗議(郵送濟ミ)ニ依リ二十二日附ヲ以テ回答(原文郵送)

シ來レルカ公海上ニ於ケル邦船臨檢ノ理由追求ニ對シ明答

ヲ爲サヌ單ニ「公海上ニ於テ日本船ニ干涉スヘカラスト各

船長ニ訓令濟ミ又漁船ヨリ漁類ヲ購フヘカラスト訓令セ

リ」ト述ヘ「又專條ハ他ヘ轉勤セリ」ト述ヘ將來事件發生

ノ餘地無カルヘキヲ回答越セルカ右カI、Gヨリノ訓令ナ

ルヲ秘シ如何ニモ自己ノ努力ナルカ如ク述ヘ居レリ且遺憾

ノ意ヲ表スル文句更ニ無シ當方抗議ニ何等反駁セス之ヲ認

メ適當ノ措置ヲ講セル形トハナリ居ルモ態度極メテ狡猾不

誠實ナリ此ノ機ニ於テ更ニ追求シ置キタシ、就テハ大使ヨ

リI、G及財政部ニ然ルヘク注意喚起方御配慮ヲ仰キ度シ

支へ轉電シ、福州へ暗送セリ

廈門 6月22日後發
本省 6月22日後着

日本外交文書

昭和期II第一部第四卷 日付索引
(昭和十年対中國關係)